

第173回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一 模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 [丸数字は予想配点、合計 50 点]

番号	正誤	理 由	
1	○		⑤
2	×	振替損益の定義ではなく、内部利益の定義である。会計単位内部における原材料等の振替から生ずる振替損益は内部利益ではない。	⑤
3	×	これらの控除に際しては、合理的な見積概算額によることも差支えない。	⑤
4	○		⑤
5	○		⑤
6	×	正味売却価額が再調達原価に歩調を合わせて動く想定される場合には、正味売却価額の代理数値として再調達原価によることができる。	⑤
7	○		⑤
8	×	当該修正差額は、法人税等調整額に加減して処理される。	⑤
9	×	割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、減損損失を認識するかどうかの判定を行う。	⑤
10	×	本店集中計算制度がとられていれば、A支店の本店売上勘定と本店のA支店仕入勘定、本店のB支店売上勘定とB支店の本店仕入勘定の金額の一致が成立する。	⑤

問題 2 [丸数字は予想配点、合計 34 点]

問 1	用 語
(a)	㊸ 繰延資産
(b)	㊸ 株主資本
(c)	㊸ 評価換算差額等
(d)	㊸ 新株予約権
(e)	㊸ 自己株式

問 2

㊸ 特別法上の準備金 の部

※ 特別法上の引当金でも可

問 3

(1)	㊸ 自己株式処分差損、自己株式の消却
(2)	㊸ その他資本剰余金からの配当

問 4

会社法は、旧商法における債権者保護、資本充実の思考を踏襲し、株主の払込額を維持拘束するとともに利益留保性の利益準備金も維持するように求めている。㊸

問題 3 [丸数字は予想配点、合計 16 点]

問 1

連結会社相互間の債権と債務は、企業集団内部の取引の結果にすぎないため、連結決算上は相殺消去しなければならない。㊸

問 2

親会社の子会社の支配を獲得するという経済的実態は新規投資額と同じ経済的実態である。この場合、取得の対価は支配獲得時の時価で算定される。㊸